





# 「ヒロガク教養講話」について

看護学部教授 三上 聖治

今年も五月七日から十五回「ヒロガク教養講話」が開催されました。この講話は担当者のいわゆる得意とする分野を分りやすくかつ新入生の印象に残るような内容を四十五分程度で文学部社会福祉学部、看護学部が合同で聴講できるように平成二十年から実施しています。

今回は学長推薦の二名の講話について紹介します。

初めは東北化学薬品㈱代表取締役の東康夫講師で、「日本の中の青森県」と題して昨年に続いて講演して頂きました。今回は農業会社を社員四人でスタートしたこと、上京したことによって多数の人と関わりを持ったこと。人と出会うことによって前向きな心を得たことについて紹介して頂きました。また、社長として次に繋

げる責務があること、各々が変わらなければ何も変わらないこと、自分が動かなければ、自分に得られるものも少ないことを解説して頂きました。学生に対しては、色々な所に出る機会を持ち、熱い気持ちで取り組む必要性を示して頂きました。

次は第三十九普通科連隊長の吉田圭秀講師の「時代の大転換期において岐路に立つ我が国の安全保障―自分史から見た我が国の安全保障―」について紹介します。初めに自衛隊のサマワでの活動紹介ビデオを放映して外国の軍隊と異なる復興支援をしたこと。逆にそのことが高い評価を受けたことを示しました。次に東京大工芸学部を卒業してどうして自衛隊に入隊したか、最初の赴任地である北海道での体験談、幹部になるために学生と隊員の両立、役人としての出向等経歴

## 2009(平成21)年度 一年生(新入生)のための『ヒロガク教養講話』

(木曜日11時15分～ 45～50分間) (414教室 大講義室)

開講日	担当者	タイトル
1	7 学長 吉岡 利忠	早寝・早起き・朝ごはん
2	14 株式会社パソナ・青森 支店長 佐々木喜美雄	大志
3	21 文学部長 畠山 篤	地域文化の発掘と発信 ―山伏神楽<鐘巻>の復元と鑑賞―
4	28 看護学部長 神郡 博	学びの意味
5	4 英語・英米文学科長 佐藤 和博	英語の辞書の世界
6	11 社会福祉学科長 八戸 宏	福祉を学ぶことは
7	2 看護学科長 木村 紀美	ボディイメージの変化とその援助
8	9 文学部 准教授(入試戦略会議メンバー) 鎌田 学	く分け>ことからはじめよう
9	16 社会福祉学部 教授(入試戦略会議メンバー) 大野 拓哉	いい加減あるいは適当に
10	23 看護学部 教授(入試戦略会議メンバー) 樋引美代子	知っているようで知らない女・男のセクシュアリティ
11	24 社会福祉学部 教授(地域総合文化研究所長) 笹森 建英	音楽美の解明
12	1 東北化学薬品㈱ 代表取締役 東 康夫	日本の中の青森県
13	8 日本語・日本文学科長 井上 諭一	“日本文化”の位置 ―クールジャパンについて―
14	15 第39普通科連隊長 兼 弘前駐屯地司令 吉田 圭秀	時代の大転換期において岐路に立つ我が国の安全保障 ―自分史から見た我が国の安全保障の現在・過去・未来―
15	29 特別参与・事務長 齋藤 昭	ユビキタス社会の到来に因んで ―ヒューマンインターフェイス―

を見ただけでも大変なのに現場での緊張感、責任感について分かりやすく解説して頂きました。何より人に恵まれ、人に支えられて現在の自分がある事を強調しました。学生も社会で活躍している講師の内容に刺激を受け、感想にも責任感や訓練が大事だと記されています。来年度も継続が望まれます。

# 実習体験報告

## 教育実習を体験して

英語・英米文学科 4年 馬場 豊樹



私は、5月18日から6月12日まで、母校の八戸市立是川中学校で4週間の教育実習をさせていただきました。

1組のクラスを担当し、1年1組、2組で英語の授業を行いました。

実習初日は、慣れないスーツに身を包み、緊張していました。正直、今までは異なる視点、立場から生徒と向き合うということに対して個人的にプレッシャーを感じていたので、振返ると

てみると、生徒にとっては4週間という短い期間であっても一生に一回の中学校生活であるため、実習生と生徒との間に大きな知識の差があり、自分分は分かっていても、英語に関する知識の薄い中学校に対して意味を分りやすくかみくだいて説明することに苦労しました。

まず、教育実習全体を通じて学んだことの一つは、誰でも円滑にコミュニケーションを図ることの難しさで大切です。実習の当初、生徒から話をしてくることは

なかったため、生徒とコミュニケーションを図ることの難しさを肌で感じていました。それから、授業中はもちろんのこと、登下校時・休み時間・放課後など時間を作って生徒と会話すること

を常に心がけました。また、専門教科をしつかり指導することができる基礎的・基本的な教科指導力が身につけていなければならぬと感じました。特に中学校1年生の英語に関しては、英語を初めて学習し始める生徒であるため、実習生と生徒との間に大きな知識の差があり、自分分は分かっていても、英語に関する知識の薄い中学校に対して意味を分りやすくかみくだいて説明することに苦労しました。

## 社会福祉実習Ⅰを終えて

社会福祉学部3年 千葉 裕輔



私は、知的障害者通所授産施設で社会福祉実習を行いました。

実習に行き、さらに利用者とのコミュニケーションの大切さを痛感しました。利用者が何を考え、何をしたいのか、何を伝えたいのかを、表情等から読み取り私達は、何をどのように対応していくのか具体的に考える必要があるからです。積極的にコミュニケーションを取ることができましたが、感情の

起伏が激しい利用者との接し方も難しく上手に対応できない場面も多かったのです。コミュニケーション方法については、会話他に、筆談や体でのジェスチャーを交えた方法も有効だと感じました。また、利用者の表情を良く観察しTPOに応じた声掛けをし、そこから得られる情報を見逃さず得る事が必要と

なっていました。一ヶ月という短い期間でしたが、何事にも冷静に対応していく事が求められるという事を学びました。また、怒る時は怒る、褒める時は褒める等のメリハリをしつかり付ける事も大切だと感じました。この事が、利用者との信頼関係に物凄く影響を与えたのです。今回の実習で得た事を、今後の人生に活かして行こうと思います。

## 精神保健福祉援助実習を終えて

社会福祉学部4年 成田 聖司



私の精神保健福祉援助実習は、地域活動支援センターラ・プリマベラとつながる野工房パッケージセンターで行いました。

実習では、自己認知や精神障がい者の理解を実習課題に受け取りることができました。

まず、はじめに地域活動支援センターラ・プリマベラでの実習では、精神障がい者とふれあう場面がとて多く、色んなお話を聞くことができました。

当初、私が予想していた障がいを持つ方の悩みは、就労などに関する悩みが多いのではないかと予想していました。しかし実際には、より身近な生活に関する悩み(例えば、食事のこと、生活費のことなど)が多く、とても意外でした。

また、お話を聞いた多くの方々は、前向きで日々楽しく暮らしているように考えていることがわかりました。こうした体験から、障がいを持つ方の価値観と自分の価値観との違いに気づかされました。すなわち、自分の尺度で考えたり、見たりするのはなく、相手の立場から見る大切さを実感しました。そして、かかわる際には柔軟な支援の必要性を学びました。

## セラピードッグ講演開催

12月12日、本学礼拝堂にて「人と犬の共生、幸せの絆」と題して、国際セラピードッグ協会代表大木トオル氏の講演が開催された。大木氏は、殺処分寸前の捨て犬を保護し、セラピードッグとして訓練・育成し、その後、病気(癌や認知症)に苦しむ人々に動物介療法を実施し多くの効果をあげている福祉活動の実践者である。

高年齢者の心を癒し、リハビリへの参加意欲を向上・推進させ、更には生きる意欲(生きがい)の創出につながる実践活動は、アメリカはもとより(50年の歴史)日本に於ても注目される療法として認知が広がっている。

本県からもセラピードッグを誕生させたい!との願いのもと、県や県獣医師会、県動物愛護協会等の支援を得て、着実に訓練が積み重ねられているとのことである。

大木氏は、自らの生い立ちの中で、吃音障害に悩み、人間関係づくりがうまく計れなかった幼少期、周囲の人々の多くは決して温かくなかったが、そんな犬たちには受容してくれたので、彼らに支えられて私は生き抜くことができました。と語り、この体験が氏の活動を支え続けている原点であり、今の活動は「ご恩返し」であると説く。

講演後半は、訓練中の犬を實際に連れて来ていただき、その成果を見せていただいた。堂内満席の参加者の拍手は講演終了後も鳴り止まなかった。



八戸 宏記

第2回

ヒロガク福祉創造フォーラム

実行委員長 社会福祉学部2年 福士 千紘



ヒロガク福祉創造フォーラム開会式

二〇〇九年十一月八日(日)昨年に続き、第2回ヒロガク福祉創造フォーラムが開催されました。このフォーラムへの参加を通じて、一人ひとりが今日の福祉課題を適切に捉え、取り組むべき方向と方法の模索を重ね、地域社会の福祉向上に向けて働く確かな働き手として自らが見出していくことを目的としています。そして、今年のテーマは「愛 地域

光り輝く「ONE PIECE」

実行委員長 看護学部2年 能登合太地



今年も「2009 弘学祭 ONE PIECE (ワンピース)」が開催され、皆様のご協力のもと無事に終えることができました。今年「ONE PIECE」をテーマに掲げ、私たち学祭実行委員や本学の全学生、教職員をはじめ、地域の皆様や企業の皆様、そして弘学祭に足を運んでくださるお客様……といった全ての方々一人ひとりを、それぞれジグソーパズルのピースにたとえ、一人ひとりが光り輝くかけがえのない存在であること

「ソーシャルワーカーとは」でした。会場に来て下さった全ての方々が何かを感じて下さったり、福祉に対して何かを考えるきっかけになり、また、それらが積み重なることにより地域福祉の発展に繋がるとを願った。昨年から更に多くの方々

プルハウス計四名の卒業生の方々にシンポジストとして参加していただき、「どんなソーシャルワーカーが求められているのか」というテーマでシンポジウムを行いました。続いて、(現場の方と一緒に)



4名のシンポジスト

コメントーターとして参加していただきました。並行して、会場の体育館にて施設販売が行われました。この施設販売では、さくら園、大石の里、就労サポートひろさき、エイブル、HANAなど

プログラムの実習、ボランティア生活体験からソーシャルワーカー像を探る」というテーマでワークショップIIが行われました。報告者として、白石拓真さん(本学社会福祉学部2年)、工藤由依さん(社会福祉学部3年)、



フォーラム実行委員と筆者(前列中央)

で、新たな取り組みとして学生の実行委員が講義の時間に各学年へ宣伝活動を行い、教員の方々にも協力していただき、学生に呼び掛ける機会を多く設けることができました。その結果、約八十名もの学生が会場に足を運んで下さいました。

意義な時間を過ごすことができたとお喜びしております。二月に学生の実行委員会が設立されてから企画、運営を学生主体で実施してきましたが、たくさんの方々のご協力、支えがあったからこそ成功させることができました。このフォーラムに参加できたことを誇りに思い、継続されていくフォーラムが地域福祉の貢献に繋がれることを願って今後も活動していきたいと思いま

「ONE PIECE」を心に刻み、準備・運営に動いできました。どうしたら来場して下さる皆様と喜びや楽しさを分かち合うことができるかを考えたうえで、昨年の反省点を改善し、主催者・参加者の皆様で喜びや楽しさの気持ちを共有できるような学祭を目指して取り組み、今年例年好評であるカラオケ大会、バンドライブ、イントロクイズ、各サークルによる模擬店、花火などに加え、初の試みでもある県内で有名な野菜の名産地「沖揚平」から直送の野菜販売、

「ONE PIECE」を心に刻み、準備・運営に動いできました。どうしたら来場して下さる皆様と喜びや楽しさを分かち合うことができるかを考えたうえで、昨年の反省点を改善し、主催者・参加者の皆様で喜びや楽しさの気持ちを共有できるような学祭を目指して取り組み、今年例年好評であるカラオケ大会、バンドライブ、イントロクイズ、各サークルによる模擬店、花火などに加え、初の試みでもある県内で有名な野菜の名産地「沖揚平」から直送の野菜販売、

当日になっても皆の胸には不安が溢れ、今年の学祭はどうなるのかと思われました。しかし、そこには絶えない笑顔と喜びや楽しさで溢れ、一人ひとりが輝いていました。心配されていた天候も回復していき、一人ひとりの輝きを後押しするかのよう

「ONE PIECE」は、パズルが完成したとき、学祭の思い出が絵として、皆様の心にいつまでも残るとの願いが込められています。私たちは皆さまの心にそれぞれが思い描いた、それぞれの学祭の絵がいつまでも心に残ることを願っています。最後に弘学祭に携わっていただいた方々一人ひとり、かけがえのない「ONE PIECE」となっている方々です。

去る十一月二十日(金)、キャリア教育セミナー「ビジネスコミュニケーション講座」が開催されました。これは、「職業観の涵養」を目標にキャリア教育の一環として開催されたものです。講師には、(株)イーディーワンから津田いづみ氏と三井祐香氏のお二人の方がお出でになりました。いずれもキャリア教育・マナー教育などで活躍されている方々です。

参加した学生からは、「ビデオ撮影を通じ自分が他人からどう見えるかがわかった」「見た目の印象が大事だということに気がついた」「あいさつの重要性がわかった」などや、「また機会があったらぜひ参加したい」などの意見が沢山寄せられ、好評のうちに終わりました。大学においてもキャリア教育の重要性が叫ばれている昨今、これからも同様の講座を企画していきたいと思えます。(就職課 福井記)



2009 学内就職セミナー

弘前学院大学独自の企業説明会

2010年1月8日(金)

午後1時~4時まで

場所 弘前学院大学 体育館

いながらにして企業を知るチャンス!!

合同就職委員会